第 2 章

鐘ヶ淵地区の現状と課題

1. 立地特性
2. 人口・世帯数の状況
3. 交通の状況
4. 土地・建物利用の状況
5. 安全・安心なまちづくりの状況
6. 水・みどりの状況
7. 鐘ヶ淵地区の課題
8. 地区住民の声

1 立地特性

本地区は、区の北端に位置し、荒川と隅田川に囲まれています。また、幹線道路である墨堤通りや水戸街道に接しています。

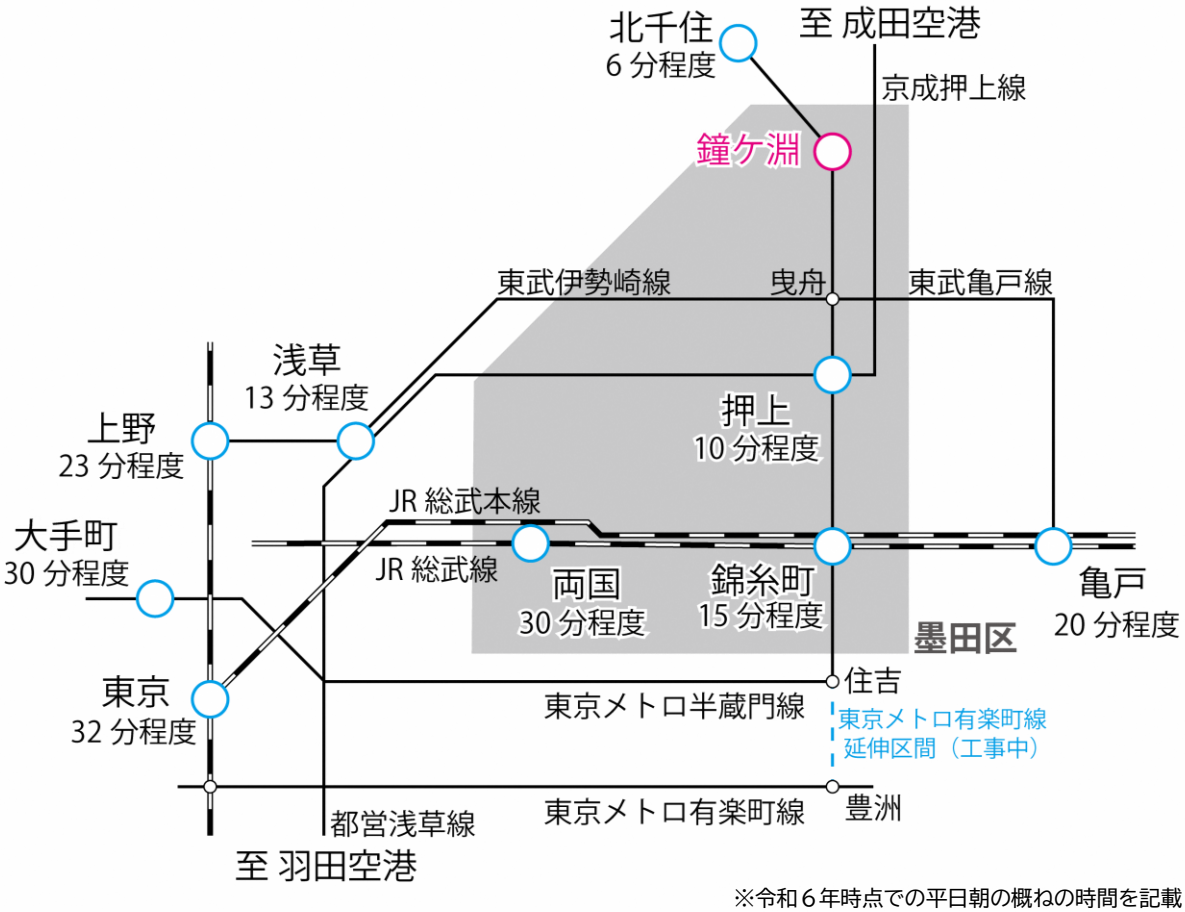
本地区には、都心と埼玉県方面を結ぶ東武伊勢崎線が走っており、本地区の中心部に位置する鐘ケ淵駅から東京都の大手町までは最短約 30 分での連絡が可能です。

また、令和６年 11 月には東京メトロ有楽町線延伸（豊洲・住吉間）工事が着手されたことから、臨海部からのアクセス性の向上が期待されます。

加えて、押上駅からは東京国際空港（羽田空港）・成田国際空港へ乗り換えなしで向かうことができるなど、東京駅・上野駅からの新幹線利用と併せ、広域的な移動手段へのアクセスがしやすい地区です。さらに、区内循環バス（北西部ルート）が利用可能である他、墨堤通り・水戸街道には４系統の路線バスが運行しており、バスを使って錦糸町や隣接区へ移動できます。

このように、本地区は公共交通機関が比較的活用しやすいことが特徴です。

図 2-1. 鐘ケ淵駅から周辺主要駅へのアクセス状況



※令和６年時点での平日朝の概ねの時間を記載しており、運行状況により変動します。

2 人口･世帯数の状況

(1) 人口･世帯数の推移

令和６年の本地区の人口は 16,816 人で、平成 17 年と比較して 104.4%と、716 人増加しています。23 区部・墨田区全体の傾向と同様に増加傾向にありますが、23 区部・墨田区全体より低い割合での増加となっています。

令和６年の本地区の世帯数は 9,391 世帯で、平成 17 年と比較して 123.7%と、1,799 世帯増加しています。23 区部・墨田区全体の傾向と同様に増加傾向にありますが、23 区部・墨田区全体より低い割合での増加となっています。

表 2-1. 人口・世帯数の推移

（単位: 人、世帯）

		平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和2年	令和6年	増減率
23 区部	人口	8,183,907	8,502,527	9,102,598	9,570,609	9,643,024	117.8%
	世帯数	4,103,468	4,420,728	4,831,123	5,236,103	5,428,860	132.3%
墨田区	人口	225,100	239,440	259,264	275,529	285,784	127.0%
	世帯数	107,701	120,797	130,862	145,768	168,520	156.5%
鐘ヶ淵地区	人口	16,100	16,124	16,164	16,457	16,816	104.4%
	世帯数	7,592	7,899	8,227	8,772	9,391	123.7%

図 2-2. 人口の推移

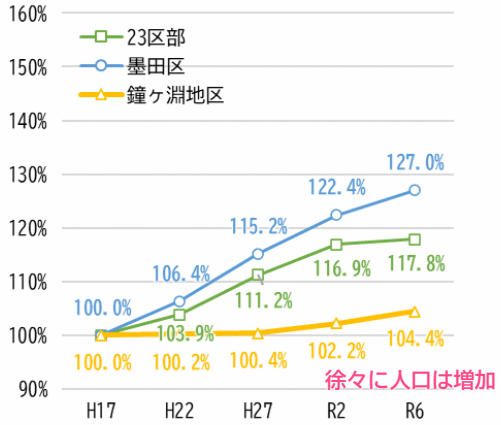
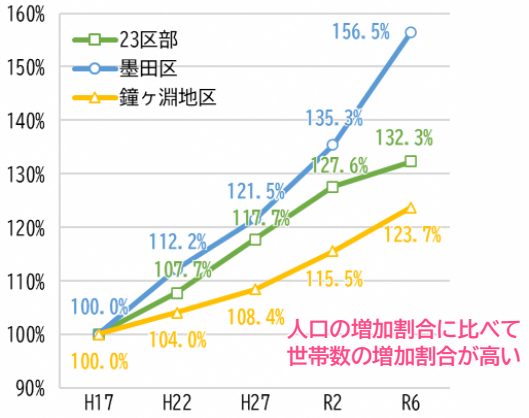


図 2-3. 世帯数の推移



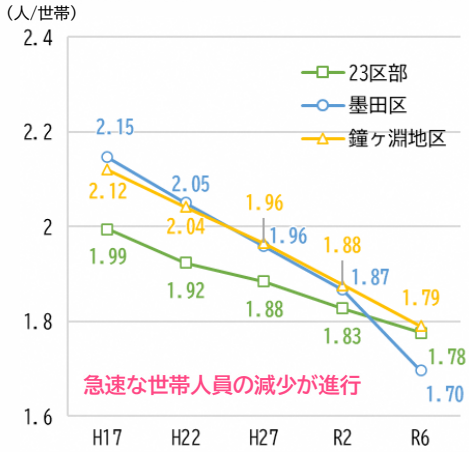
資料:住民基本台帳をもとに作成（東京都：各年１月、墨田区・鐘ヶ淵地区：各年４月１日）

(2) 世帯人員の推移

23 区部・墨田区・鐘ヶ淵地区すべてにおいて世帯人員は減少傾向にあります。平成 17 年に 2.12 人/世帯でしたが、令和６年は1.79人/世帯となっています。

世帯構成の傾向として、単身世帯の増加や、核家族化が進行していることが考えられます。

図 2-4. 世帯人員の変化



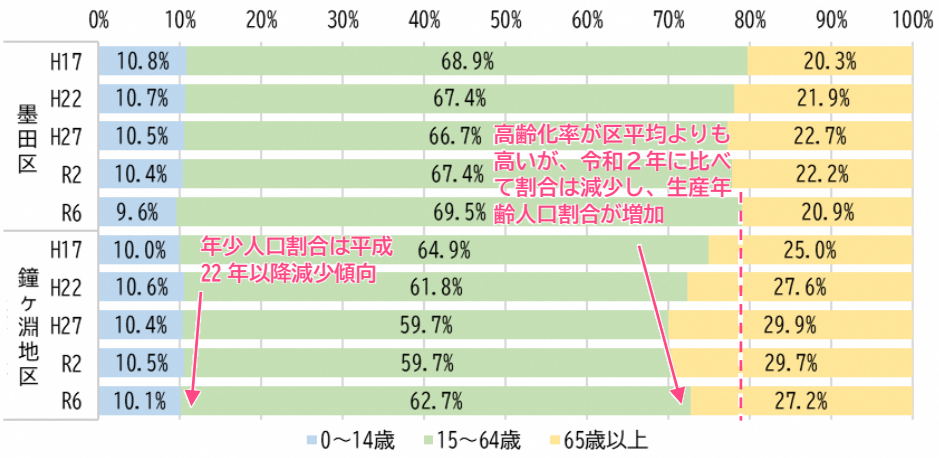
資料:住民基本台帳をもとに作成
（東京都：各年１月、墨田区・鐘ヶ淵地区：各年４月１日）

（3） 年齢階層別人口の構成比の推移

本地区の人口構成は、墨田区全体と比較して高齢者人口（65 歳以上）の占める割合が高くなっていますが、令和２年からは減少に転じています。

また、年少人口（０歳～14 歳）は平成 22 年以降減少傾向にあります。

図 2-5. 年齢階層別人口の構成比



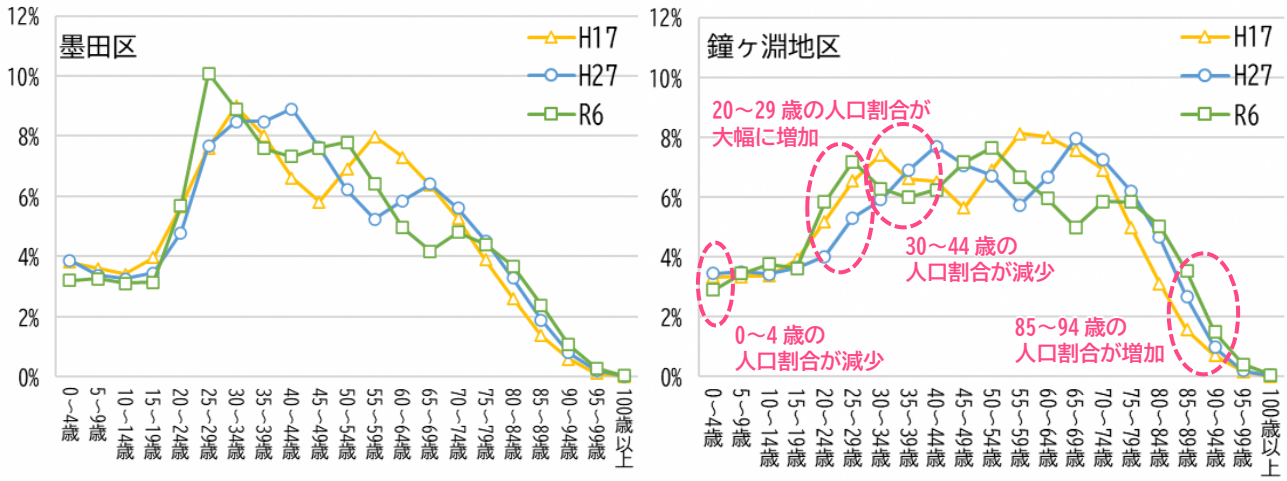
資料：住民基本台帳（各年４月１日）をもとに作成

（4） 年齢階層別人口（5歳階級別）の推移

本地区の 20 代の占める割合は、墨田区全体に比べると低いですが、近年、地区の人口に占める割合が増加しています。

また、80 歳以上の高齢者の占める割合は増加傾向にあり、かつ、墨田区全体における割合よりも高く、高齢化が進行している地区となります。さらに、０～４歳、30～44 歳が占める割合は減少していることから、子育て世帯の占める割合が減少していると考えられます。

図 2-6. 年齢階層別人口の推移



資料：住民基本台帳をもとに作成

（墨田区（H17, H27, R6）：各年４月１日、鐘ヶ淵地区（H27, R6）：各年４月１日、鐘ヶ淵地区（H17）：７月１日）

3 交通の状況

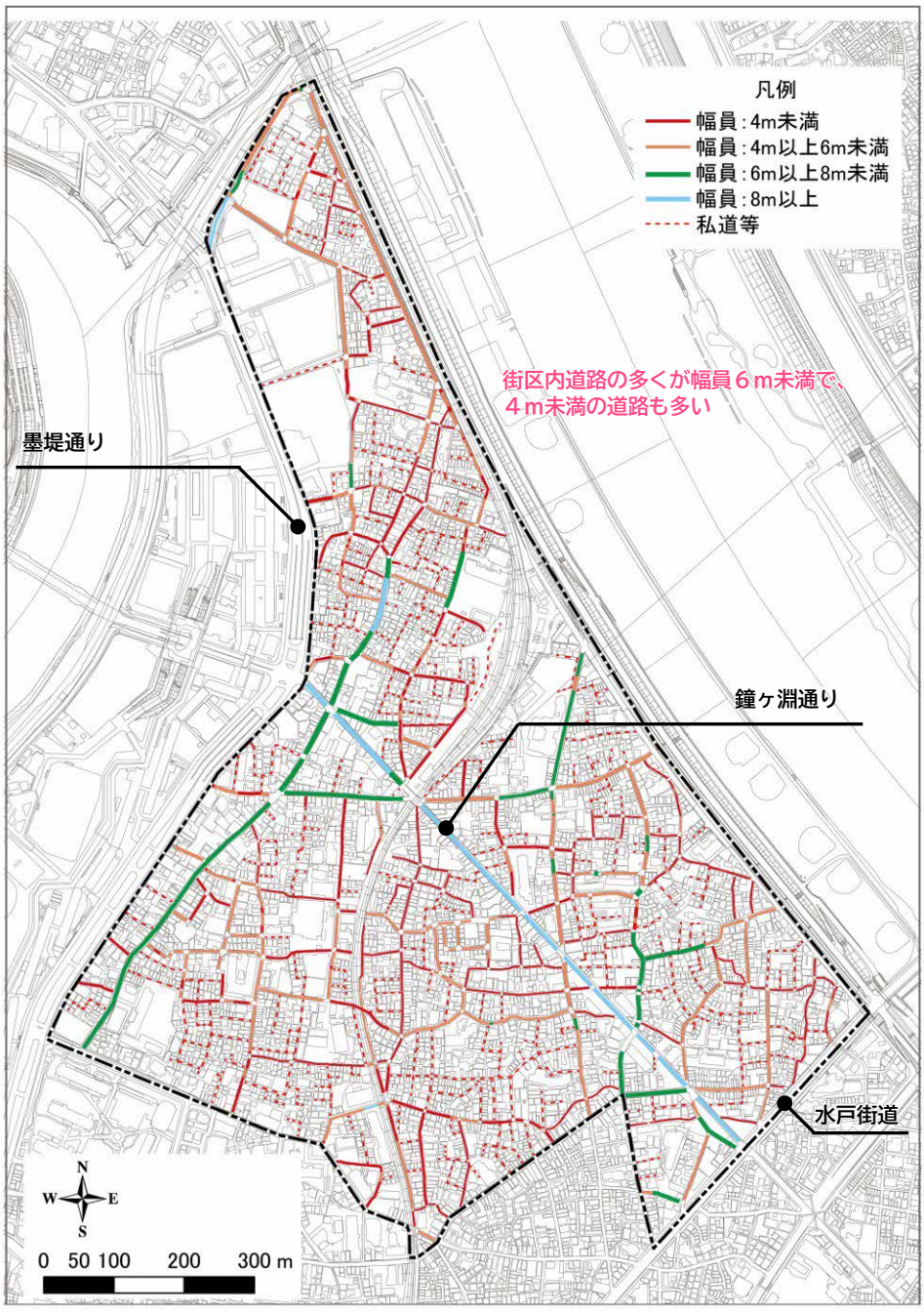
(1) 道路の状況

① 道路幅員

本地区の主要な幹線道路である墨堤通りや水戸街道、鐘ヶ淵通りなどは幅員８ｍ以上となっていますが、地区内道路の大半は幅員６ｍ未満であり、４ｍ未満の道路も多くなっています。

なお、幅員６ｍ以上の道路では、緊急車両の通行や円滑な消防活動や救命活動が行いやすくなるとされています。

図 2-7. 道路幅員の現況図



資料：都市計画地理情報システムデータ、墨田区道路台帳現況図をもとに作成
※私道等は道路台帳に記載のない道路を指します

② 都市計画道路

都市計画道路とは、都市の骨格を形成し、最も基幹的な都市施設として都市計画法に基づき都市計画決定された道路です。

本地区における都市計画道路の整備状況は、墨堤通り（補助第 119 号線）が整備済み路線であり、水戸街道（放射第 13 号線）が概成路線です。

また、鐘ヶ淵通り（補助第 120 号線）は、整備が進められている路線となっています。

図 2-8. 地区内道路の位置付け

資料：鐘ヶ淵駅周辺地区まちづくり計画をもとに作成

③ 地区幹線道路、主要生活道路

墨田区都市計画マスタープランにおいて、整備を進めていく道路として、地区幹線道路・主要生活道路等を位置付けています。

地区幹線道路とは、区内の地域と地域、地域と拠点、拠点と拠点を結び、都市内における道路交通の円滑な処理を担う道路です。

主要生活道路とは、地区内の日常的な交通を処理する道路で、災害時における消防活動や救命活動を行う緊急車両が通行可能な道路として位置付けています。この主要生活道路のうち、早期に事業化を目指す路線として優先整備路線があり、本地区では 10 路線を優先整備路線に位置付けています。

④ 踏切

鐘ヶ淵通りと東武伊勢崎線が交差する伊勢崎線第 17 号踏切は、平成 16 年に都が策定した「踏切対策基本方針」において重点踏切に位置付けられています。踏切は駅前交差点の中心に位置していますが、鐘ケ淵駅周辺において線路を東西に通り抜けられる場所が鐘ヶ淵通りのみであるため、多くの交通が集中する箇所になっています。そのため、朝夕のピーク時間帯には、1 時間あたりの踏切遮断時間が最大 41 分となっています。

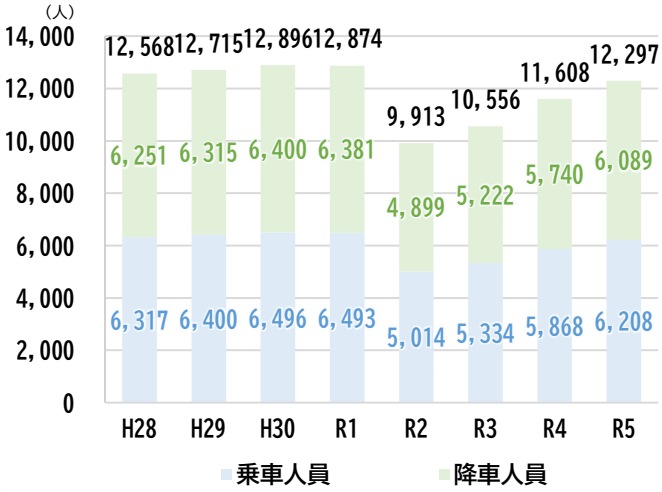
図 2-9. 踏切における交通混雑の様子

（2） 鉄道の状況

本地区には、東武伊勢崎線鐘ケ淵駅があり、鉄道が本地区中央部を南北に縦断しているため、市街地が東西に分断されています。

鐘ケ淵駅の１日平均乗降者人員は、平成 28 年以降 12,500 人程度で推移してきましたが、令和２年に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大幅に減少しています。令和２年以降の乗降者人員は、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には達していませんが、徐々に回復しています。

図 2-10. １日平均乗降者人員の推移



資料：東京都統計年鑑、東武鉄道ウェブサイトをもとに作成

（3） 駅舎の状況

東武伊勢崎線の線形は、鐘ケ淵駅～堀切駅間で荒川に沿って大きくカーブを描いています。鐘ケ淵駅の駅舎はその一部にかかっており、ホームもカーブする形となっているため、電車の停車時に電車とホームの間が広く空いている箇所が生じています。

なお、ホームに沿う線路のカーブには一定の基準がありますが、鐘ケ淵駅はその基準を満たしていない状態です。

また、急行電車等の追い越しのための分岐を駅部で設けている構造上の理由から、特に下りホームでは改札から離れた場所に電車が止まる形となっており、改札から走って電車に向かう乗客も見られます。

図 2-11. 鐘ケ淵駅の上空からの写真

出典：国土地理院ウェブサイト

図 2-12. 鐘ケ淵駅の様子

(4) バス･タクシーの状況

鐘ヶ淵通りでは区内循環バスが運行しており、地区内外へのバスを利用した移動が可能です。しかし、この路線のバス停は鐘ケ淵駅から約100m離れたところにあるため、鉄道とバスの乗り換えが不便な状況です。

また、本地区周辺には、４系統のバス路線が通っていますが、いずれも墨堤通り（補助第 119 号線）や水戸街道（放射第 13 号線）などの、駅から離れた大通りを運行しています。

なお、駅前はタクシー乗降場がなく、タクシーへの乗り換えも不便な状況です。

以上のことから、駅前での異なる公共交通手段への乗り換え利便性が低くなっています。

図 2-13. バス路線・停留所の分布状況

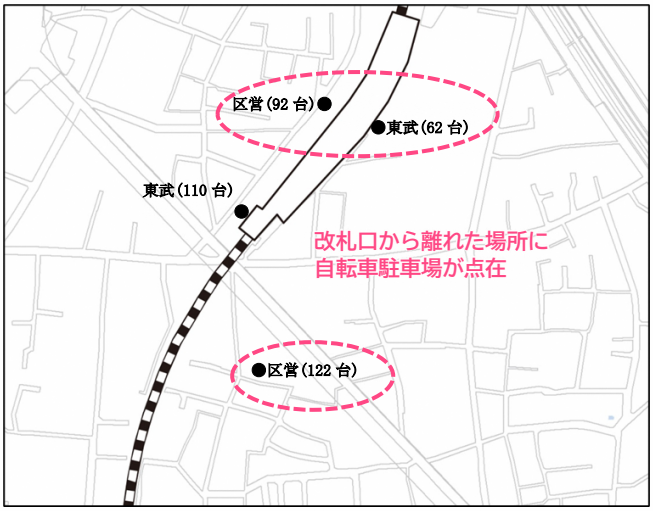
資料：都営バス路線図、京成タウンバス路線図、
墨田区内循環バス運行ルートをもとに作成

(5) 自転車駐車場の状況

本地区には、４か所（区営２か所、民営２か所）の自転車駐車場が整備されており、収容台数は合計で 386 台となっています。このうち、区営自転車駐車場の登録状況は、令和４年 10 月時点において約 50%となっており、収容台数は充足しています。

ただし、３か所の自転車駐車場については、駅改札口からやや離れた場所に位置しています。

図 2-14. 鐘ケ淵駅周辺自転車駐車場位置図



資料：墨田区自転車活用推進計画、
東武不動産株式会社ウェブサイトをもとに作成

4 土地・建物利用の状況

(1) 土地利用の状況

本地区の土地利用は、住宅用地が 44.0%で最も多くなっています。商業用地については鐘ヶ淵通り沿道を中心に広がっていますが、平成 23 年と比較すると 8.7%に減少しています。

また、工業用地は点在しており、9.2%と減少傾向にあります。

表 2-2. 主な用途別建物利用の推移

(単位:ha)

	平成 23 年	平成 28 年	令和4年
商業用地	8.7(10.5%)	8.0(9.7%)	7.2(8.7%)
住宅用地	33.8(41.0%)	34.7(42.1%)	36.3(44.0%)
工業用地	9.0(10.9%)	8.4(10.2%)	7.6(9.2%)

図 2-15. 土地利用現況（H23）

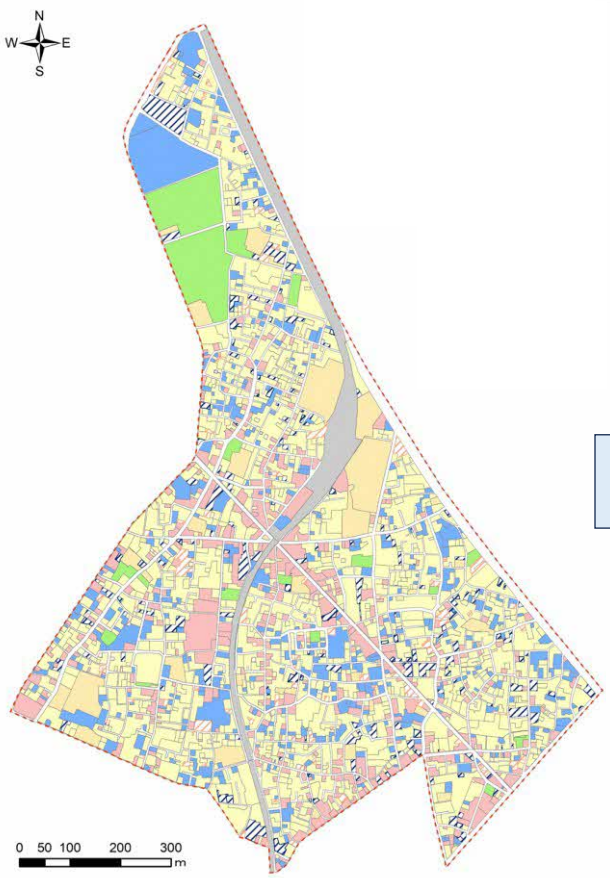
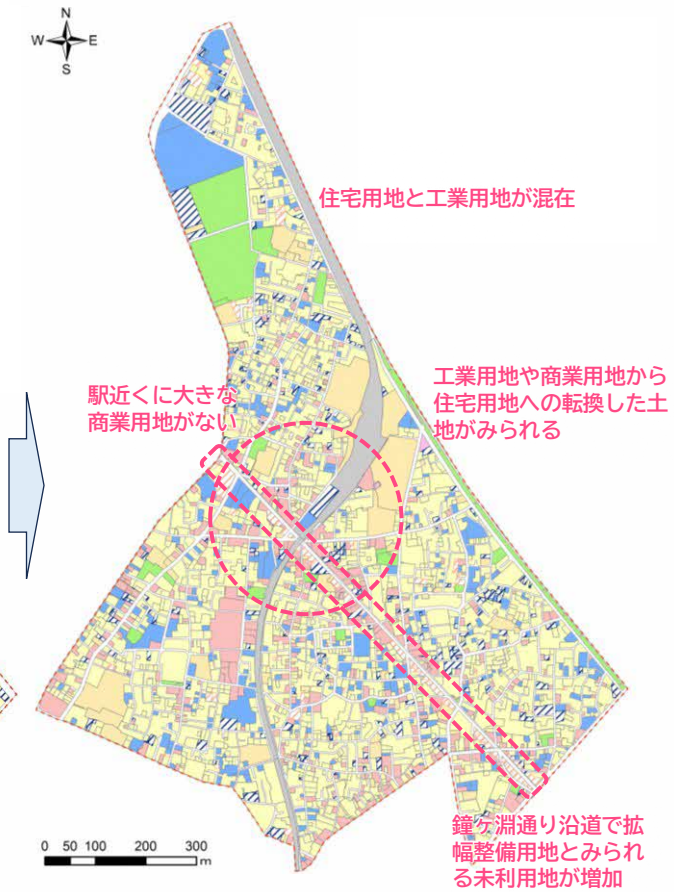


図 2-16. 土地利用現況（R4）



資料：平成 23 年度/令和４年度 墨田区土地利用現況調査をもとに作成

（2） 建物利用の状況

本地区の建物利用は、商業系が 568 棟で 11.8%、住宅系が 3,761 棟で 78.2%、工業系が 393 棟で 8.2%となっています。平成 23 年と比較すると、商業系・工業系の建物が減少し、住宅系の建物が増加傾向にあります。

表 2-3. 主な用途別建物利用の推移

（単位:棟）

	平成 23 年	平成 28 年	令和4年
商業系	690(14.4%)	638(13.3%)	568(11.8%)
住宅系	3,482(72.8%)	3,615(75.6%)	3,761(78.2%)
工業系	528(11.0%)	445(9.3%)	393(8.2%)

図 2-17. 建物利用の状況（H23）

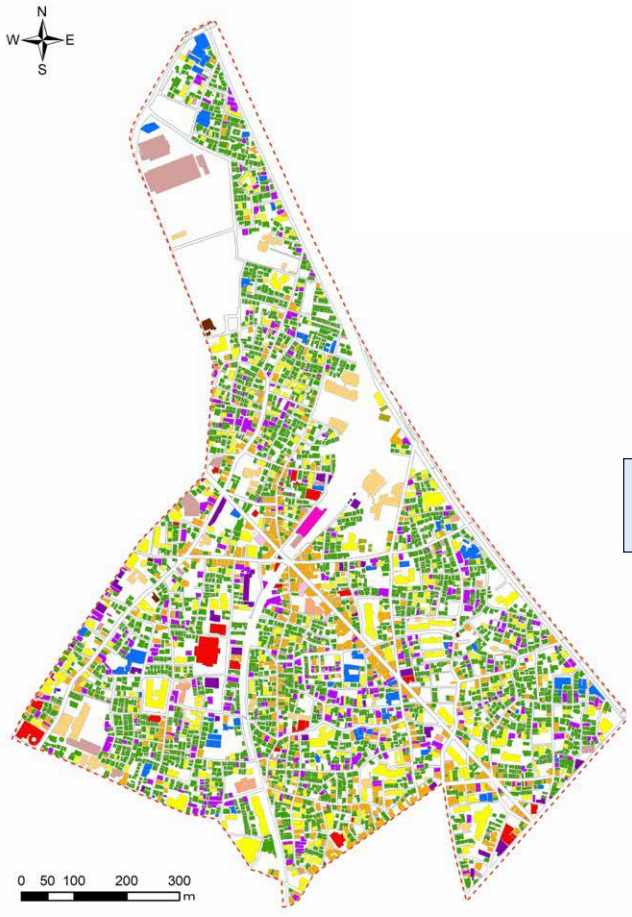
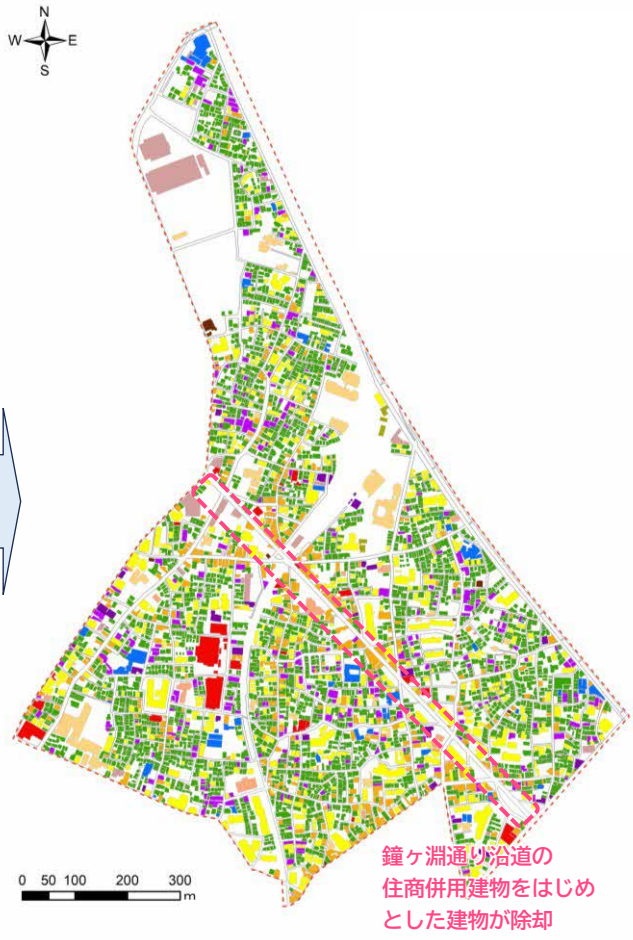


図 2-18. 建物利用の状況（R4）



資料：平成 23 年度/令和４年度 墨田区土地利用現況調査をもとに作成

（3） 建物構造の状況

本地区の建物構造は、防火造が 2,485 棟で 51.6%と最も多く、次いで準耐火構造が 1,781 棟で 37.0%、耐火構造が 330 棟で 6.9%、木造が 217 棟で 4.5%となっています。平成 23 年と比較すると、木造・防火造の建物が減少している一方、耐火・準耐火構造の建物が増加しており、不燃化まちづくりの効果が表れています。

表 2-4. 建物構造の推移

（単位:棟）

	平成 23 年	平成 28 年	令和4年
耐火構造	241(5.0%)	311(6.5%)	330(6.9%)
準耐火構造	1,175(24.6%)	1,509(31.5%)	1,781(37.0%)
防火造	3,031(63.4%)	2,705(56.5%)	2,485(51.6%)
木造	334(7.0%)	262(5.5%)	217(4.5%)

図 2-19. 建物構造の状況（H23）

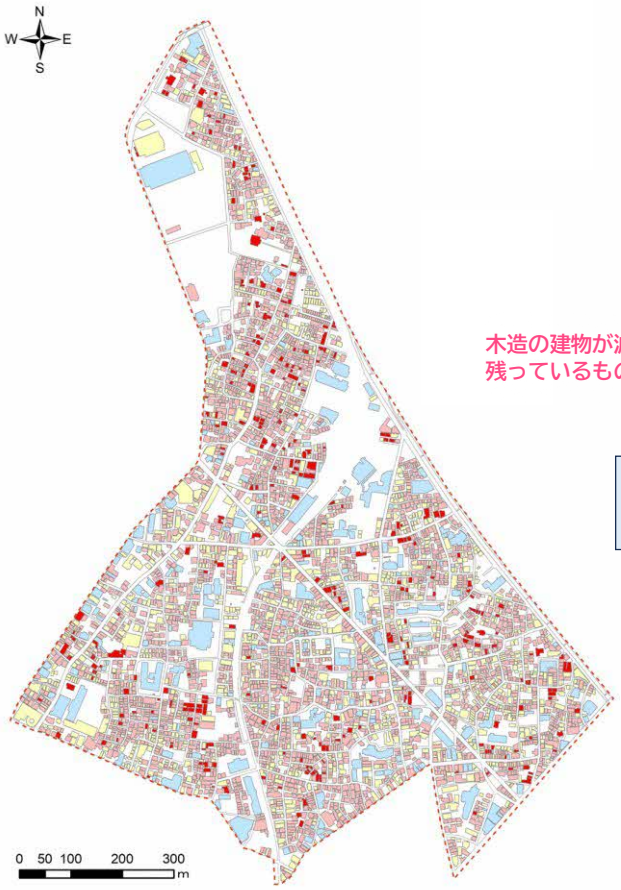
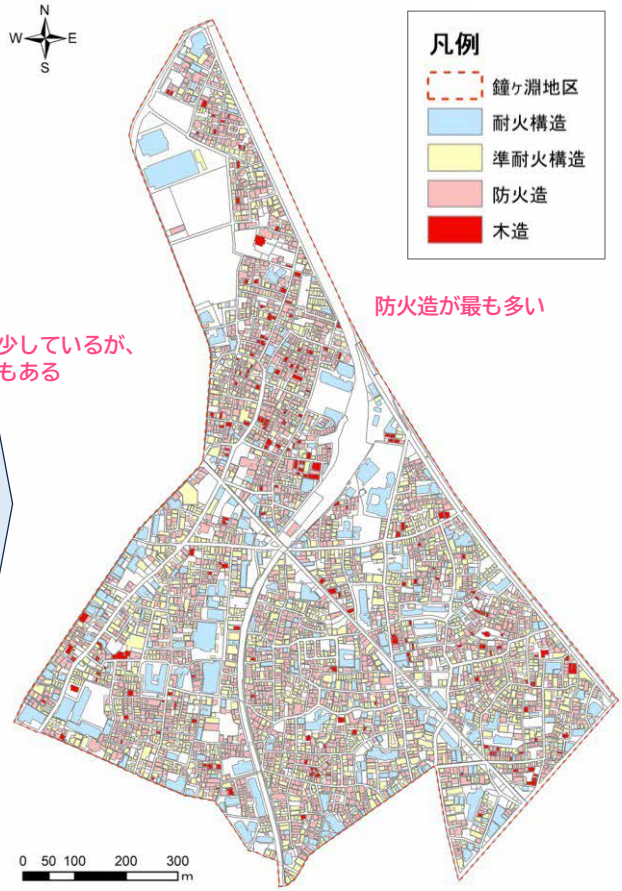


図 2-20. 建物構造の状況（R4）



木造の建物が減少しているが、
残っているものもある

資料：平成 23 年度/令和４年度 墨田区土地利用現況調査をもとに作成

（4） 空き家の状況

墨田区空き家実態調査報告書における、本地区が含まれる堤通・墨田・八広地域の空き家候補物件数は、平成 29 年度調査時が区全体 889 件中 356 件（40.0%）、令和２年度調査時が区全体 474 件中 205 件（43.2%）と、区内６つの地域の中で最も多い状況でした。

同調査における建物状態ランク別物件数では、最も状態の悪いランクＥ（倒壊の危険性が高い、あるいはすでに一部倒壊している）に該当する物件が、平成 29 年調査時点で区全体３件中２件がありました（令和２年度調査時では区全体で 0 件）。また、２番目に状態の悪いランクＤ（損傷が著しく、利活用は困難である）に該当する物件も、平成 29 年度調査時が区全体 28 件中 13 件（46.4%）、令和２年度調査時が区全体 17 件中 8 件（47.1%）と、こちらも６つの地域の中で最も多い状況でした。

表 2-5. 建物状態ランク別空き家候補物件数の推移

（単位：戸）

		A	B	C	D	E	総数
堤通･墨田･八広地域	H29	317	16	8	13	2	356
	R2	174	16	7	8	0	205
墨田区　全域	H29	806	35	17	28	3	889
	R2	412	34	11	17	0	474

資料：墨田区空き家実態調査報告書（R3.3）をもとに作成

○ランクＡ
健全な状態。あるいは、小規模の修繕により利活用が可能な場合が多い。

○ランクＢ
一部破損等があるが、当面の危険性はない。利活用には中規模の修繕が必要である。

○ランクＣ
多くの損傷が見られる。利活用には大規模な修繕が必要である。

○ランクＤ
損傷が著しく、利活用は困難である。

○ランクＥ
倒壊の危険性が高い、あるいはすでに一部倒壊している。

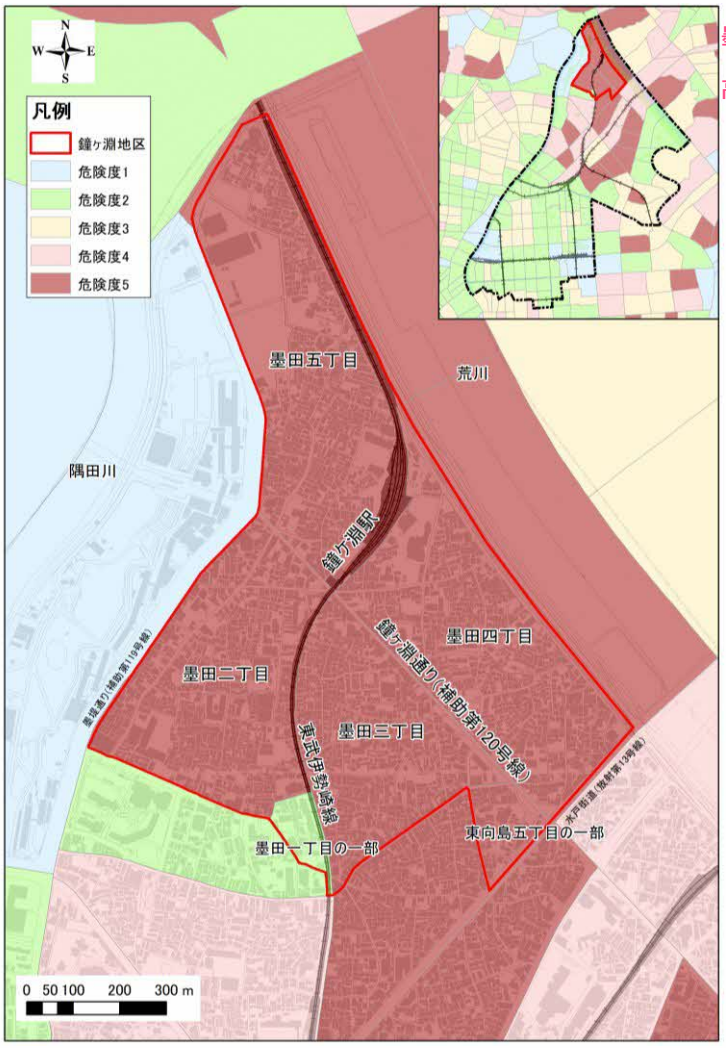
5 安全・安心なまちづくりの状況

(1) 地域危険度(地震)の評価結果

都が実施した「地震に関する地域危険度測定調査（第９回）」による地域危険度の評価結果によると、都内全 5,192 町丁目の中で、墨田三丁目は建物倒壊危険度、火災危険度、総合危険度のすべてにおいて 10 位以内に入っており、特に危険度の高い地区となっています。

また、その他の町丁目についても危険度の順位が高い状況にあります。

図 2-21. 総合危険度の分布



墨田区の中でも地域危険度（地震）の危険度ランクが高い

表 2-6. 地域危険度一覧

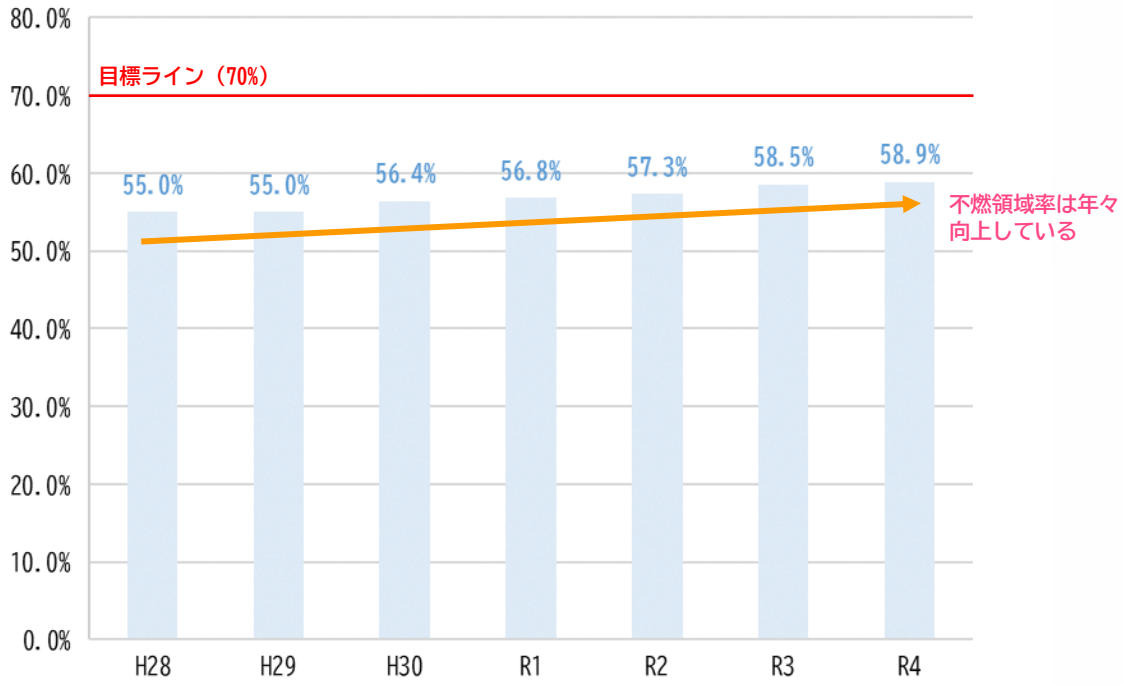
場所	建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度	
	ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位
墨田一丁目	危険度3	940 位	危険度2	2339 位	危険度2	1461 位
墨田二丁目	危険度5	44 位	危険度4	124 位	危険度5	75 位
墨田三丁目	危険度5	9 位	危険度5	4 位	危険度5	6 位
墨田四丁目	危険度5	29 位	危険度5	73 位	危険度5	29 位
墨田五丁目	危険度4	94 位	危険度5	76 位	危険度5	66 位
東向島五丁目	危険度5	55 位	危険度5	34 位	危険度5	65 位

資料：地震に関する地域危険度測定調査（第９回）（令和４年９月：東京都都市整備局）をもとに作成
※都内の市街化区域の 5,192 町丁目について、それぞれの危険度を順位付けしている。

（2） 不燃領域率の状況

本地区の不燃領域率は、平成 28 年以降、徐々に増加し令和４年には 58.9%となっていますが、延焼の危険性がほぼなくなるとされている 70%には未達の状況です。地震災害に対して延焼の危険性が高いぜい弱な市街地が残されており、引き続き対応が必要と考えられます。

図 2-22. 不燃領域率の推移



資料：防災都市づくり推進計画第７章をもとに作成
※不燃領域率の正式な数値は H28、R3 の数値であり、その他年度は参考値となります。
※不燃領域率：市街地の燃えにくさを示す指標

（3） 浸水被害の想定

本地区において、荒川が氾濫した場合の浸水想定区域をみると、全域で 3.0m以上の浸水が想定されており、浸水継続時間は２週間以上と想定されています。

また、本地区の東側では家屋倒壊等をもたらすような激しい氾濫流の発生が想定されており、早期の立退き避難が必要な区域として指定されています。

本地区は荒川氾濫時における水害の危険性が墨田区内で最も高い市街地であり、防災・減災への取組を進める必要があります。

図 2-23. 浸水想定区域図（想定最大規模）

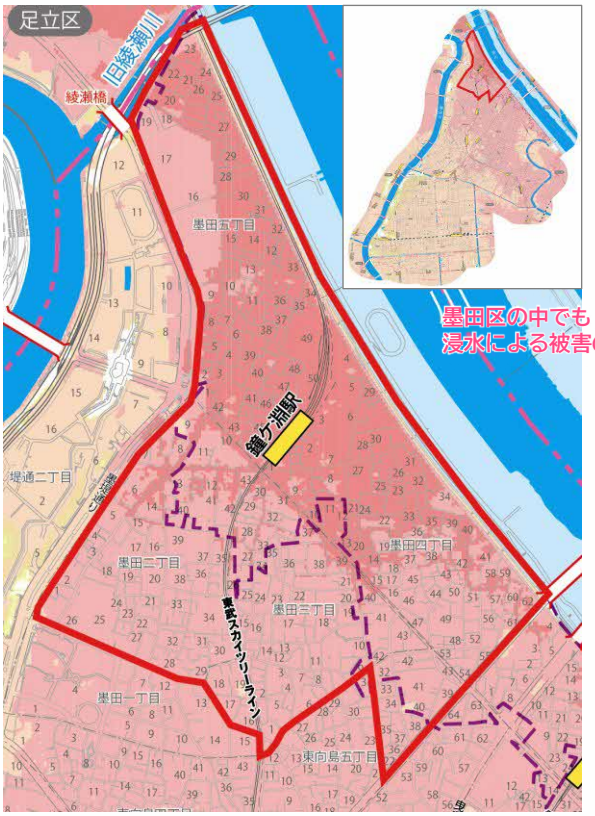
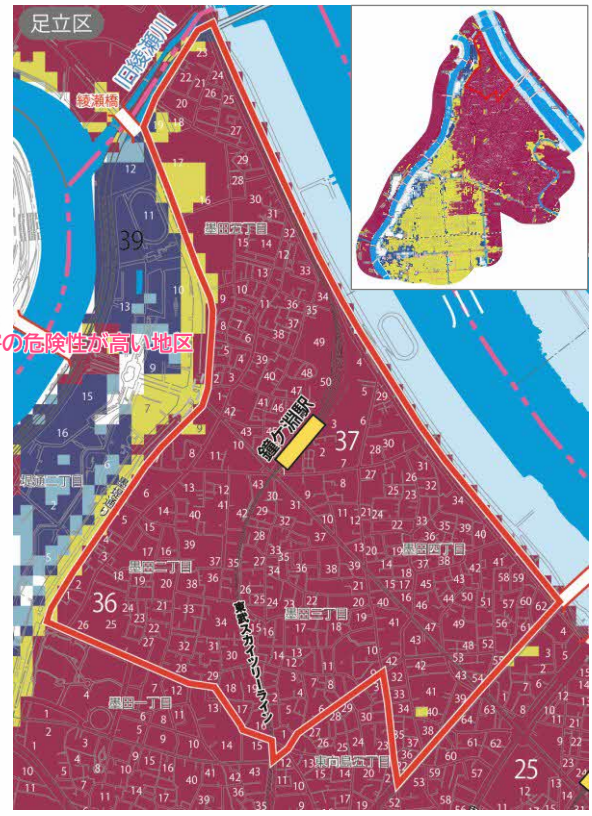


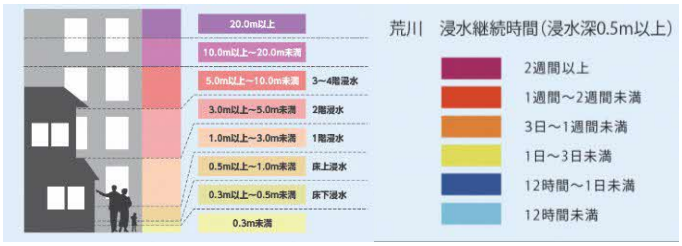
図 2-24. 浸水想定区域図（浸水継続時間）



＜凡例＞

- 鐘ヶ淵地区
- 早期の立退き避難が必要な区域（家屋倒壊等氾濫想定区域）

◆浸水の目安



出典：墨田区水害ハザードマップ

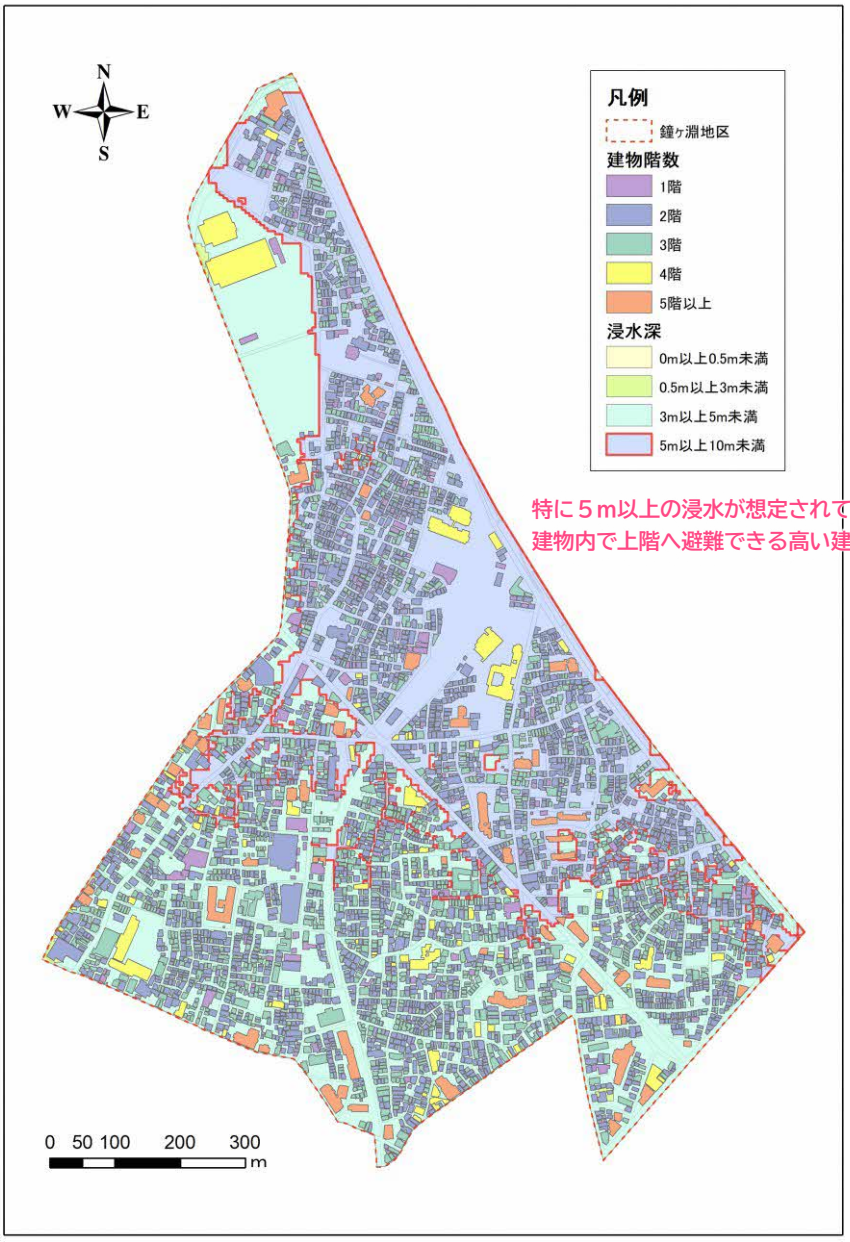
※浸水継続時間とは、「浸水深が 50cm を下回るまでの時間」を指します。

（4） 浸水被害と建物階数

本地区において、荒川が氾濫した場合の浸水想定区域（浸水深）は、「３m以上５m未満」の区域が本地区の 55.6%、「５m以上 10m未満」の区域は本地区の 44.0%を占めています。また、建物階数別の建築面積の割合は、１階が 5.6%、２階が 50.8%、３階が 28.0%、４階が 7.4%、５階以上が 8.2%となっています。

一般に「３m以上５m未満」の区域では２階以下の建物が、「５m以上 10m未満」の区域では３階以下の建物が浸水する恐れがあり、建物内での避難が難しい状況にあります。特に、鐘ヶ淵通りの北側の区域においては、広範囲で５m以上の浸水が想定されています。なお、鐘ヶ淵地区を含め区内全域において、建物の上層階ではなく浸水想定区域外へ避難する「広域避難」が原則となっています。

図 2-25. 建物階数と浸水深



資料：令和４年度 墨田区土地利用現況調査、国土数値情報をもとに作成

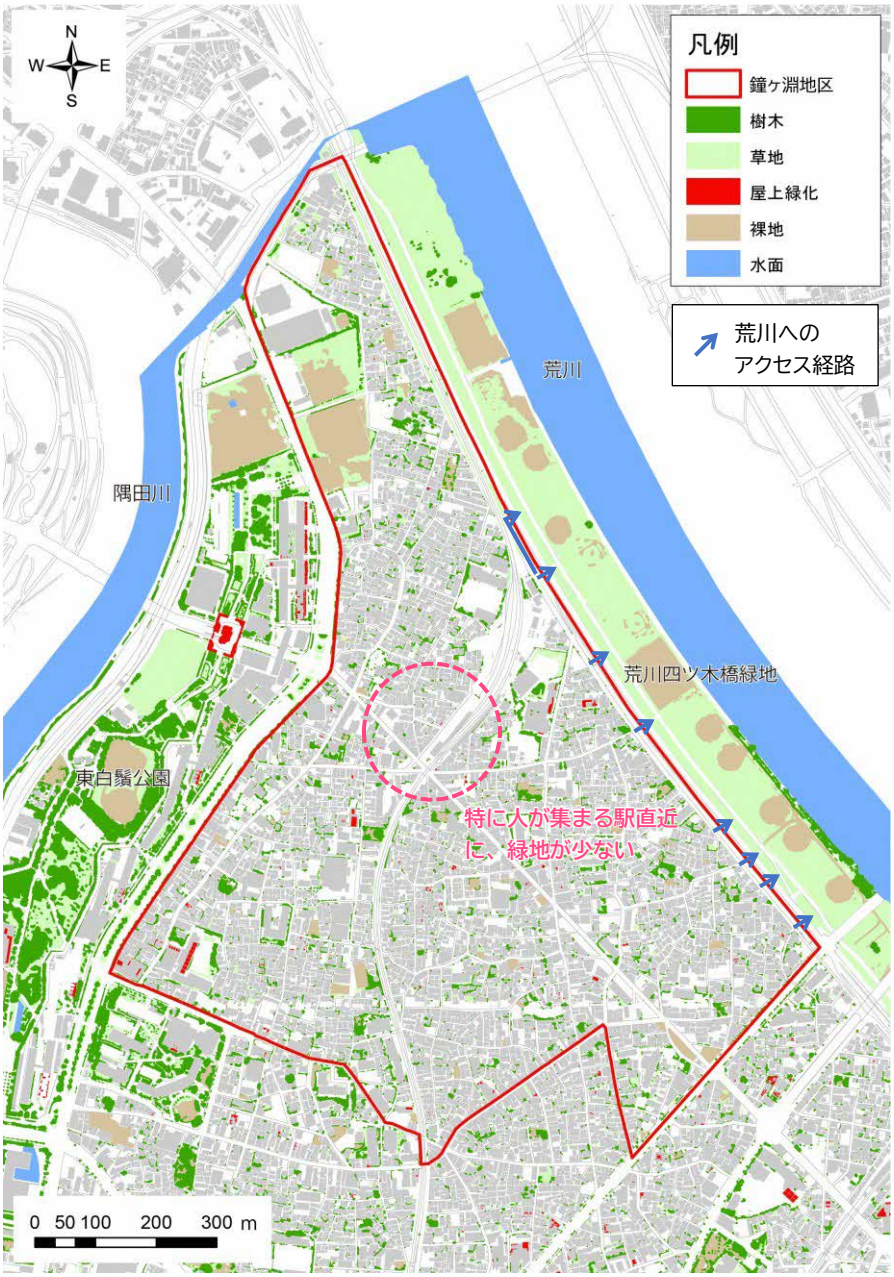
6 水・みどりの状況

(1) 水辺・緑被分布の状況

本地区は、地区北部に草地や裸地が分布しているものの公園や緑地の数は少なく、みどりの量を示すみどり率（緑被地・公園・水面の占める割合）が 12.0%と、本区全体の 20.8%と比較して低くなっています。

周辺には荒川、隅田川、東白鬚公園、荒川四ツ木橋緑地などのまとまった水辺環境やみどりが分布していますが、これらの水辺環境や公園には本地区からアクセスしづらい状況です。

図 2-26. 緑被分布図

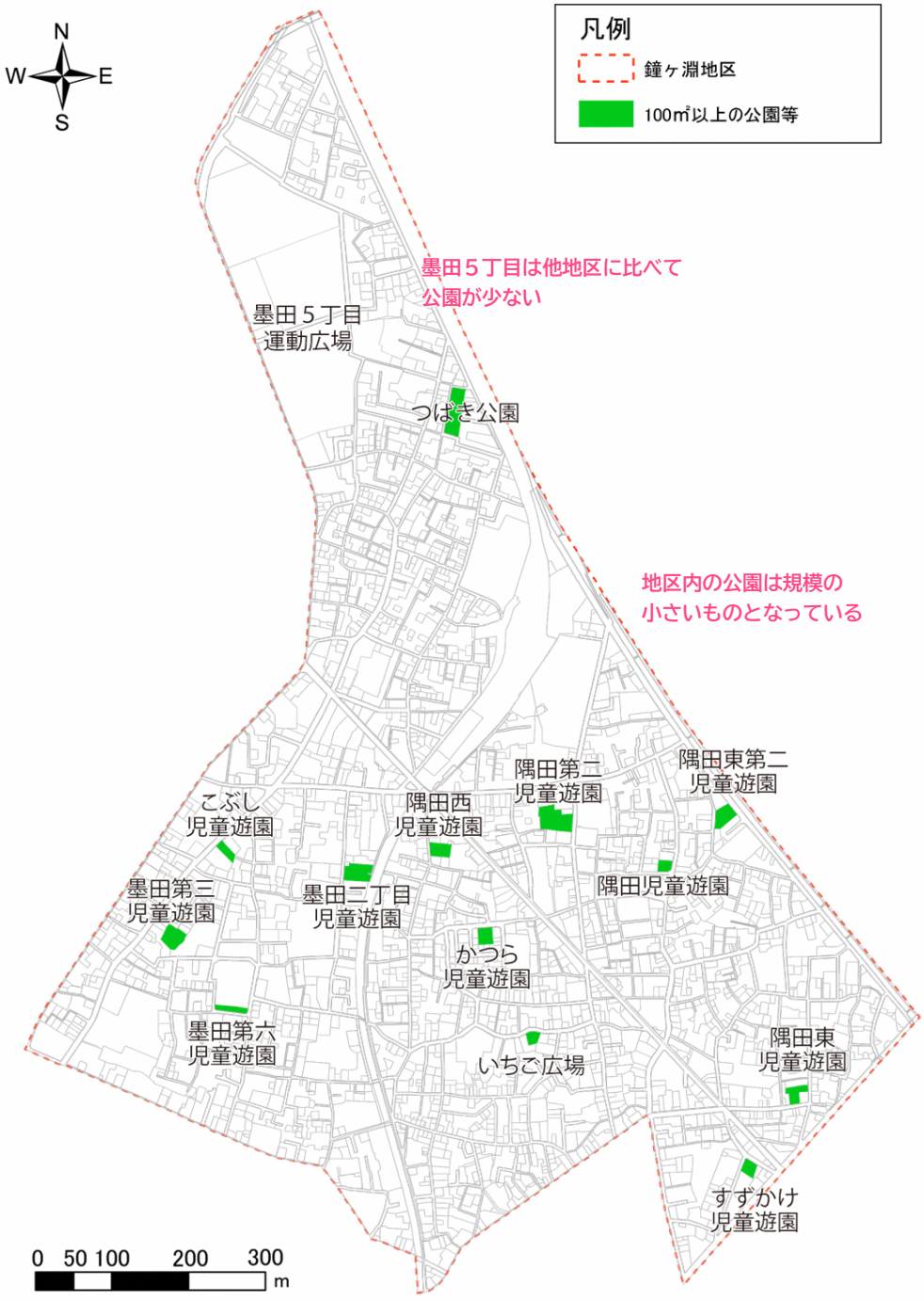


資料：墨田区緑と生物の現況調査（平成 30 年度）をもとに作成

（2） 公園等の整備状況

本地区には、区立公園 1 か所、児童遊園 11 か所、区民広場 1 か所が整備されており、いずれも小規模な公園となっています。公園等の合計面積は約 0.77ha で、本地区全体の約 1 %に留まっており、墨田区平均の約 4.8%よりも低くなっています。また、公園等の配置が地区南部に偏っており、地区北部は公園等が少なくなっています。

図 2-27. 公園等の整備状況



資料：墨田区公式ウェブサイトをもとに作成

7 鐘ヶ淵地区の課題

前述の上位関連計画・現況整理の結果を踏まえ、本地区のまちづくりにおける課題を次のように整理します。

【人口・世帯に関する課題】

■現況

・人口は増加傾向である一方、増加率は区部・区平均と比較し低い
・核家族化、単身世帯化の傾向がある
・20 代・80 代の人口割合が増加している
・子育て世帯が減少している

■課題

＜居住環境＞

○ 若年世帯や子育て世帯の定住促進

【交通に関する課題】

■現況

●地区内道路
・鐘ヶ淵通りで拡幅整備を行っている
・地区内の道路は大部分が幅員６ｍ未満
●駅前
・駅前の踏切は交通渋滞の原因となっている他、ピーク時に歩行者等が集中することで安全な通行に支障をきたしている
●駅周辺
・駅から他の交通手段への乗り換えがしづらい状況にある
・鉄道により東西市街地間の移動がしづらい状況にある

■課題

＜鐘ヶ淵通り＞

○ 鐘ヶ淵通り拡幅整備事業の早期実現
○ 安全な歩行環境の整備

＜鉄道＞

○ 鉄道による市街地の分断の解消
○ 駅前交差点（踏切）における交通錯綜の改善

＜交通ネットワーク＞

○ 交通結節機能の向上
○ 地区内における交通ネットワークの形成

【土地利用・建物利用に関する課題】

■現況

・駅周辺に規模の大きい商業施設が少ない
・店舗等の商業系建物が減少している
・鐘ヶ淵通り沿道での建物の除却や建替えが進んでいる
・住宅用地と工業用地等が混在している
・商業用地・工業用地が減少し住宅用地が増加している
・老朽住宅、木造住宅が多い
・多くの空き家が残存している

■課題

＜駅周辺＞

○ 駅周辺における生活サービス機能（医療、商業、福祉など）の充実
○ 駅周辺のポテンシャルを活かした土地の有効活用

＜鐘ヶ淵通り沿道＞

○ 沿道商店街の活性化
○ 拡幅整備事業に伴う沿道の利活用

＜居住環境＞

○ 住工が調和した居住環境の創出
○ 各種事業による地権者への影響
○ 空き家への対応

【安全・安心なまちづくりに関する課題】

■現況

●地震・火災
・地震発生時の火災等に関する地域危険度が高い
・不燃領域率が 70%未満
・老朽住宅・木造建物が多い

●水害
・荒川が氾濫した場合、ほぼ全域が3.0m以上浸水し、２週間以上浸水が継続すると予測されている
・洪水が発生した場合、垂直避難できる建物が少ない

●避難路等
・地区内の道路の多くが幅員６ｍ未満

■課題

＜地震・火災＞
○ 狭あい道路や行き止まり道路の解消
○ 不燃建築物への建替え促進
○ 延焼遮断帯の形成
○ 沿道の建築物における耐震化、不燃化

＜水害＞
○ 治水施設の整備推進
○ 事業者との協働による避難所・避難場所の確保
○ 周辺区と連携した広域避難の体制づくり
○ 高台まちづくりの検討

＜避難路等＞
○ 安全で円滑に移動できる避難経路の確保

【水とみどりに関する課題】

■現況

・地区内にまとまった緑地が少ない
・地区に隣接して荒川や隅田川、東白鬚公園や荒川四ツ木橋緑地といった水辺環境やみどりが立地している一方、地区内からアクセスしづらい状況にある
・公園は小規模で立地に偏りがある

■課題

＜水とみどりの環境整備＞
○ 周辺の緑地・水辺環境への経路の確保
○ 公園・緑地等の環境の整備

8 地区住民の声

(1) 地区住民によるまちづくりへの参画

計画改定にあたり、本地区の将来を担う小学生へのアンケート調査や、本地区の将来像を考える住民ワークショップ※を実施しました。その結果は地区住民の貴重な意見として次のように取りまとめ、計画改定の方向性の一つとして取り入れることとしました。

※アンケートやワークショップの概要は参考資料「計画改定のプロセス」をご参照ください。

■地区住民の参画経緯

令和４年度　まちづくりパネル展（令和５年１月 20 日～23 日）
令和５年度　小学生アンケート（令和５年７月）
住民ワークショップ 第１回（令和５年９月）第２回（令和５年 11 月）
まちづくりパネル展（令和６年１月 26 日～29 日）

(2) 地区住民の課題意識

地区住民が感じている課題意識は、前項で整理した「鐘ヶ淵地区の課題」と多くの点で一致しており、「開かずの踏切」への対応をはじめ、地区住民の方が日ごろ感じている感覚とも合致していることが確認できました。また、課題として挙がっていなかった点として、地域コミュニティが交流できる場やイベント、本地区の歴史の継承やシンボルとなる場などのアイデンティティとなる要素が求められていることが明らかになりました。

※赤字：「地区の課題」と合致した事項　青字：意見交換により得られた事項

【人口・世帯に関する課題】

＜ご意見のまとめ＞

- 若年世帯・子育て世帯の減少

【交通に関すること】

＜ご意見のまとめ＞

- 乗換利便性が低い
- 開かずの踏切
- 地区内の道路幅員が狭い
- 安全に移動できる歩行者空間の不足

【安全・安心なまちづくりに関すること】

＜ご意見のまとめ＞

- 水害発生時の対応
- 緊急車両が進入できる道路が少ない
- 老朽木造建築物が多い
- 犯罪が少ないまちになってほしい

【土地利用・建物利用に関すること】

＜ご意見のまとめ＞

- 駅周辺の生活サービス機能が不足
- 商業が衰退している
- 鐘ヶ淵通り沿道の活用
- コミュニティの場が不足している
- 多世代が利用できる施設・遊び場があると良い

【水とみどりに関すること】

＜ご意見のまとめ＞

- 緑や水辺が豊かなまちになってほしい
- 遊べる場所・公園が少ない

【地域性に関すること】

＜ご意見のまとめ＞

- 地域のイベントを開催してほしい
- 地区の歴史を大事にしたい
- 地区のシンボルとなる場所がほしい

（3） 地区住民が望む鐘ヶ淵の姿

住民ワークショップでは、グループ毎に将来像につながるキャッチフレーズを出し合いました。

本地区は古くからの歴史があり、下町の雰囲気を残し、なつかしさを感じる住みやすいまちです。地区住民はこうした点を「鐘ヶ淵らしさ」と捉え、今後のまちづくりにおいても大事にしたいと考えていることがわかりました。

また、まちづくりに際し、地域のイベントや住民同士の交流についても重要とのご意見を受けました。

＜ワークショップであがった意見＞

1班

～ねがい～

鐘ヶ淵は暮らしやすいまちであることから、“スローライフ”という言葉を軸に、暮らしに必要な便利さや安全のあるまちを目指すとともに、日々の暮らしが楽しくなる商店やイベント、公園などを整備することで、まわりに自慢できる鐘ヶ淵になってほしい。

みんなが明るくつながり、安心で、すみよい鐘ヶ淵

2班

～ねがい～

鐘ヶ淵の魅力は暮らしやすい下町であるという点であり、ここを活かし、伸ばしながらにぎわいづくり・交通の安全、快適性確保、災害対策を進めたい。また、「住み続けられる」よりも「住みたい」と感じることが重要で、子どもや中高生の集める公園の不足、荒川河川敷の活用といった健康につながる場づくりも進めてほしい。

健やかに住みたい下町

3班

～ねがい～

鐘ヶ淵の、独特のゆるさ・のんきさを、一番古くて、かつ新しいすみだとして残したい。将来、カネガフチでよかったなと思えるような、鐘ヶ淵の歴史とこれからの鐘ヶ淵を活かしたまちづくりをしてほしい。特に子育て世代や高齢者が交流できる場や、それらを繋ぐ空間を整備してほしい。

多世代ゆるく 一番古く新しい思い出の街カネガフチ

＜鐘ヶ淵らしさ・いいところ＞

すみよいまち
静かでくらしやすいまち
ゆとりのあるまち
下町らしさが残るまち
なつかしさを感じるまち
墨田区で一番歴史があるまち

「みんなが明るくつながるまち」
「まわりに自慢できるまち」
「鐘ヶ淵でよかったと思えるまち」
「住みたいまち」

＜望むまちづくり＞

便利なまち
スローライフ
日々の暮らしが楽しくなる商店やイベント
交流できる場づくり
遊び・体を動かせる場づくり
安全・安心なまちづくり
歴史を活かしたまちづくり